

# 鬼

## シンポジウム in ふくちやま 2012



### ◆ 講師プロフィール ◆

いと い みち ひろ  
糸井通浩さん



1938年、京都市生まれ。小学校から京丹後市(旧大宮町)で育つ。京都大学文学部(国語国文学専攻)卒。

国公立の高校教諭を経て、愛媛大学、京都教育大学、龍谷大学、京都光華女子大学で教鞭を執る。現在、京都教育大学・龍谷大学名誉教授。京都地名研究会副会長。

#### 主要共編著

『国語教育を学ぶ人の為に』『日本地名学を学ぶ人のために』  
(以上、世界思想社)  
『京都学の企て』『京都学を楽しむ』『京都の地名 検証(1)(2)(3)』  
(以上、勉誠出版)  
『王朝物語のしぐさとことば』(清文堂出版)  
『京丹後市の伝承・方言』(京丹後市刊)

### ◆ 解説者プロフィール ◆

やぎ とおる  
八木透さん



1955年、京都市生まれ。同志社大学文学部文学化学科卒。佛教大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得満期退学。現在、世界鬼学会会長、佛教大学歴史学部教授。京都生まれの京都育ちの生粋の京都人。祇園祭鉾町で、近世から続く白生地問屋の長男の家に生まれる。民俗学を志してからは、京都人であることを誇りに思い、京都人であることを売りにするようになる。

専門領域は、日本・アジア地域の家族、特に夫婦や親子関係の歴史とジェンダーに関する領域及び日本の民俗信仰や民俗芸能に関する領域。

#### 主要著書

『愛宕山と愛宕詣り』(編著、京都愛宕研究会、2003年)  
『京都愛宕山と火伏せの祈り』(編著、昭和堂、2006年)  
『日本の民俗7 男と女の民俗誌』(共著、吉川弘文館、2008年)  
『日本の民俗信仰』(共著、八千代出版、2009年)

### ◆ 千本ゑんま堂大念佛狂言(京都市登録無形民俗文化財 保護団体:千本ゑんま堂大念佛狂言保存会) ◆

千本ゑんま堂大念佛狂言は京都市上京区の千本閻魔堂引接寺(いんじょうじ)境内の舞台にて演じられる念仏狂言です。念仏狂言とは、室町時代以降に寺社において開かれる念仏法会の余興として公開されていた念仏踊りや寸劇などが、しだいに宗教色が薄れ、演劇色が濃くなったもので、千本閻魔堂引接寺のほか、京都市中京区の壬生寺、神泉苑、右京区の嵯峨清涼寺に伝わります。

念仏狂言の多くは無言で、囃子に合わせて演じられますが、「ゑんま堂狂言」だけがほとんどの演目にセリフがあり、念仏狂言の中でも能狂言(狂言師を抱えた諸国大名が開催)と一番影響を与え合った関係にあるのではないかとわれています。

現在、保存会の会員数およそ25名、演目数23を数え、毎年5月1日から4日に千本閻魔堂引接寺で開催される本公演は数多くの来場者で賑わいます。

### ◆ 上演演目 ◆

#### えんま庁



鬼が鉄杖を持って登場し、閻魔法王と帳付(記録係)を迎えます。そして鬼は縛った亡者を引き連れて再登場し、亡者を座らせて色々といじめて喜びますが、鬼は亡者の持った巻物の不思議な力に、逆に負かされてしまいます。そこで鬼は、亡者から無理矢理に巻物を取り上げ、帳付に差し出します。

鬼から巻物を受け取った帳付は、その内容から亡者が善人であることを知り、閻魔法王に許しをもらい、「閻魔帳」にそのことを書き留め逆に亡者を解放して鬼を懲らしめ、縛り上げて亡者に番をするように言いつけ、閻魔法王とともに退場します。

最初はおとなしくしていた鬼ですが、閻魔法王や帳付が去ったと知ると急に強くなり、また亡者をいじめようとしますが、やはり巻物の力にはかないません。そこで鬼は、亡者から巻物を受け取る代わりに、亡者を背負って極楽へと案内していきます。

#### 伯母ヶ酒

酒の大好きな五兵衛は酒屋の伯母の家を訪ね、何かと酒をただ飲みしようと色々を試みます。しかし、伯母は都合よく飲ませてくれそうにありません。

そこで五兵衛は、この辺りに酒屋好きの鬼が出たと嘘をついて伯母を怖がらせます。伯母の家を一度離れた五兵衛は、鬼の面をつけて自ら鬼になりすまし、伯母を脅かして酒を飲むことに成功しますが…。

ゑんま堂狂言は演者全員が面をつけて演じますが、この狂言は面の上から面をつける珍しい狂言です。



#### 土蜘蛛



ゑんま堂狂言の中でも、特によく演じられる演目です。

病に伏せる主君・源頼光(みなもとのらいこう)を、家来渡辺綱(わたなべのつな)、平井保昌(ひらいほうしょう)が見舞います。日増しに衰弱していく頼光の病気は、実は土蜘蛛の魔力によるものだったのです。

綱、保昌が下がったあと、僧に身を変えた土蜘蛛が現われ頼光に襲いかかります。頼光は名刀「膝丸」で土蜘蛛と戦いますが、もう少しのところで、取り逃がしてしまいます。

騒ぎを聞き、駆けつけた綱・保昌の二人は床に落ちた蜘蛛の血をたどって土蜘蛛を見つけ出し、勇敢に戦います。

この狂言でまかれる蜘蛛の巣の一部を持って帰ると、災難や盗難よけになると言い伝えられ、おめでたいこととして、大変人気のある狂言です。